

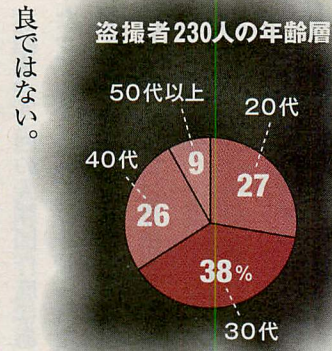
なぜ「盗撮」に走るのか

「性犯罪男」の傾向と対策

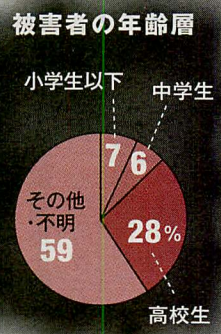
まさか、こんな人たちが……というのが、素直な思いだろう。有名企業トップの取り調べなどに関心を集める盗撮などの性犯罪。あなたの彼や夫、職場の同僚は大丈夫か。

「講師は体調不良のため、別の方が務めます」
こんなアナウンスが約3000人の聴衆で埋まる会場に流れたのは、午後1時の開会直前だった。「女性の活躍推進」をテーマに、8月22日、富山市のホテルで開かれたシンポジウム。

ここで講演する予定だったのが、日本IBMの大歳卓麻元社長(63)である。
シンポジウムは、同社の人事担当の女性が代役に立ち、スケジュールどおり進んだ。ただ、このときは主催の富山県も代役の人事担当者も知らなかったというが、大歳元社長が会場に来られなくなった理由は、体調不良ではない。



大歳元社長は取り調べに、そう述べたという。
初犯であれば、罰金で済むことも多い「盗撮」。昨年1年間に都内だけで263件、全国では数千件レベルで立件されており、捕まらないケースも含めると日常茶飯事ともいえる悪質行為だ。多くは手口が単純なこと



に就任し、今年5月に会長を退任後も、最高顧問として社員1万人超の社内に影響力を保持していた。TOTO、カルビー、三菱UFJフィナンシャル・グループ、花王、明治安田生命保険の5社の社外取締役と、総務省の情報通信審議会の会長も務めていたが、取り調べを受けたことが8月30日に報じられると、すべて辞任。事件前は、社長時代に女性が働きやすい職場に改革したことなどで知られた経済界の大物だったが、事件後は、以前からセクハラ行為が噂されていたなどと噂が報じられるなど、「エロおやじ」に急転した。自宅や家族構成も一部で報道され、家族が被る苦痛も相

もあって、いたずらの延長のようにはみられがちだが、被害者に深い心の傷を負わせ、加害者が払う代償も決して小さくない。
大歳元社長は東京大学工学部を卒業後、日本IBMに入社。1999年に51歳の若さで社長

「盗撮現場」として多いのが駅のエスカレーター。階段と違い、カメラがぶれにくい、ということだろうか。このほか書店、コンビニなども要注意だ。

剣道日本一の警察官も

犯罪を取り締まる立場の警察官による盗撮も珍しくない。8月31日には、愛知県警の巡查(30)が、県内の書店で女子高生(30)のスカートの下にビデオカメラを差し入れたとして逮捕された。

また、盗撮ではないが、神奈川県警の巡查部長(31)は、女子高校生に「好きだから写真を送ってよ」と要求し、裸の写真を



「盗撮現場」として多いのが駅のエスカレーター。階段と違い、カメラがぶれにくい、ということだろうか。このほか書店、コンビニなども要注意だ。

危険信号なのは

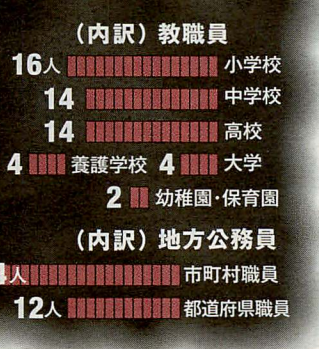
専門家たちは、盗撮などは繰り返されることが多いと指摘する。事実、最近の盗撮事件の報道をみても、逮捕された男が「10年ほど前からやっていた」などと供述しているケースがある。

そうした人については、「性(嗜好)障害」という病気ととらえ、カウンセリングなどの治療をする必要があるという。「表に出る1件の裏には、何十

2011年1月から今年9月5日まで朝日新聞が報じた「盗撮事件」について、職業別については、公的な仕事に就いている人+学生の計160人の内訳。教職員、警察官(警察職員を含む)、消防署員、自衛官は、「公務員」「都道府県職員」「市町村職員」の人数には含めていない。「民間」(自営、無職なども含む)は報道されていないものも膨大にあり、教職員が全体の中で一番多いという意味ではない



アルコールや薬物、性などの依存症専門の大石クリニック(横浜市)の大石雅之院長は、そう話す。
スカートの中や女性の裸の姿を見たいという思いは、おそらく大多数の男性に共通するものだろう。盗撮のドキドキ感も想像できる。盗撮は痴漢などと同じ非接触で気づかれにくく、粗暴さが薄いため罪の意識が小さくて済むとも考えられる。
それでも、盗撮に踏み切るには高いハードルがある。それを越える人には、なにか特徴があるのだろうか。



性障害専門医療センター(東京)代表理事で精神科医の福井裕輝氏は、あらゆる職業の人がストレスなどで自暴自棄になったときなどに一線を越え得るとしたうえで、こう言う。
「比較的能力者とした仕事に就き、息がつかまる思いをしている人には、社会的にダメとされる